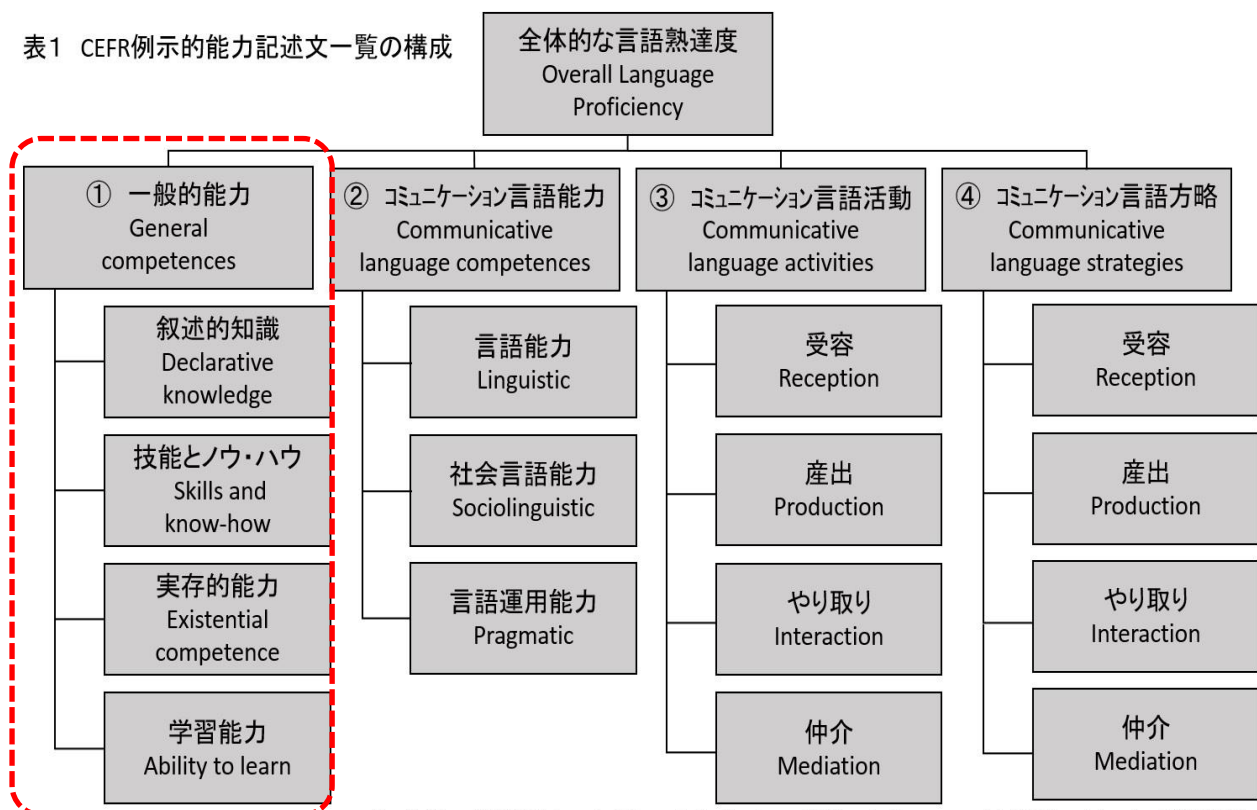


Can doで示す能力の範囲について

- Can doをもとにしたカリキュラム開発を考える上では、言語の使用に関わるどのような能力をCan doで示していくかについて検討する必要がある。
- 「日本語教育の参照枠」二次報告6ページ、表1「CEFR例示的能力記述文一覧の構成」では、全体的な言語熟達度 (Overall Language Proficiency) を①～④に分けて整理している。このうち、日本語能力として評価の対象となるのは②、③、④であり、「日本語教育の参照枠」一次報告では、②、③、④の能力を表す言語能力記述文 (Can do) を示している。
- 言語能力記述文 (Can do) が示されていない① (表1点線部分) は、一般的能力と呼ばれる能力であり、下記のような能力から構成される。
 - ・ 叙述的知識 (世界、社会文化、異文化などについての知識)
 - ・ 技能とノウ・ハウ (社会的、生活、職業・専門的、異文化間的な技能)
 - ・ 実存的能力 (態度、動機、価値観、信条、認知的スタイル、性格)
 - ・ 学習能力 (言語とコミュニケーションに関する意識、音声意識と技能、学習技能、発見技能)
- Can doをもとにしたカリキュラム開発においては、このようなCan doで示されていない能力の育成についても視野に収めていくべきではないか。
- 「日本語教育の推進に関する法律」(令和元年法律第48号)では、第1条において、「多様な文化を尊重した活力ある共生社会の実現に資するとともに、諸外国との交流の促進並びに友好関係の維持及び発展に寄与すること」が目的として掲げられた。この「多様な文化を尊重した活力ある共生社会の実現」のためには、日本語教育においても、言語技能としての日本語能力の育成だけでなく、日本語の学びを通して、多様な文化を尊重していくための能力の育成が必要ではないか。

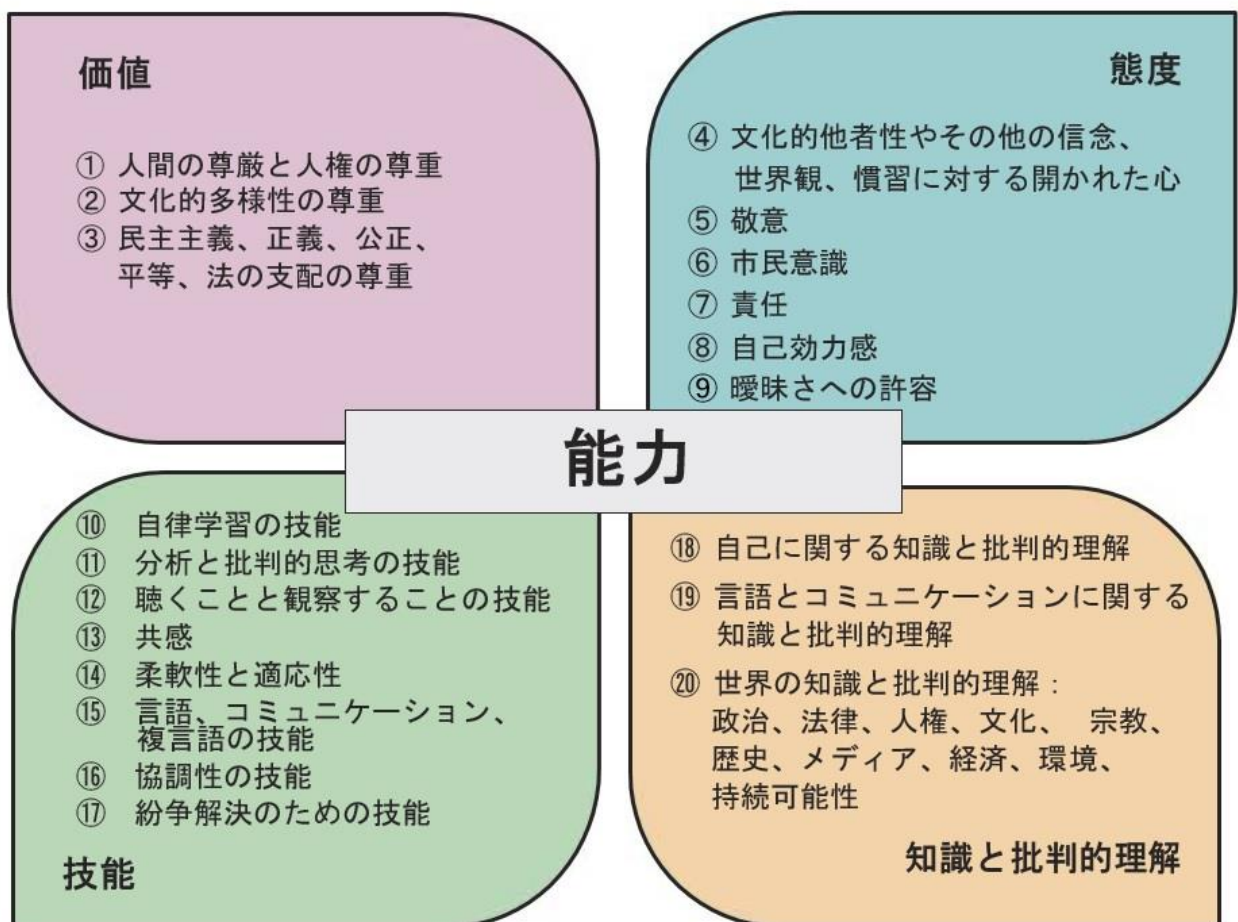
表1 CEFR例示的能力記述文一覧の構成



Council of Europe(2018) CEFR Companion Volume with New Descriptors, p30 "Figure 1 - The structure of the CEFR descriptive scheme"より翻訳転載

- 欧州評議会 (2016) Competencies for democratic culture: living together as equals in culturally diverse democratic societies (『民主的文化のための能力 -文化的に多様な民主主義社会の中で平等に共存していくために』) では、民主主義社会の中で多様な文化を尊重し共存していくための能力を「民主的文化のための能力」とし、そのための能力を20の能力で示している。
- 言語の使用に関わる能力には、知識や技能だけではなく、意欲、態度、価値観なども重要な要素として含まれる。Can doをもとにしたカリキュラムを作成するにあたっては、このような広範な能力の育成を視野に収め、どのような能力をCan doで示すのかについて検討する必要がある。

民主的文化のための能力に含まれる20の能力



価値

① 人間の尊厳と人権の尊重

この価値観は、すべての人間は平等な価値を有し、平等な尊厳を有し、平等な尊重を受ける権利を有し、同一の人権および基本的自由を受ける権利を有し、相応に取り扱われるべきであるという一般的な信念に基づいている。

② 文化的多様性の尊重

この価値観は、他の文化的所属、文化的多様性、ならびに複数の視点、見解および慣習が肯定的に評価され、受け入れられ、大切にされるべきであるという一般的な信念に基づいている。

③ 民主主義、正義、公正、平等、法の支配の尊重

この価値観のセットは、社会が正義、公正、平等、法の支配の原則を尊重する民主主義プロセスを通じて運営され、管理されるべきであるという一般的な信念に基づいている。

態度

④ 文化的他者性やその他の信念、世界観、慣習に対する開かれた心

開かれた心とは、自分自身とは異なる文化的な関係を持つと考えられる人々、または自分自身とは異なる信念、世界観、慣習に向けた態度である。それは他の人々および世界の他の見通しと従事するためについての感受性、興味および自発性を含む。

⑤ 敬意

敬意は、本質的な重要性または価値があるという判断に基づく、誰かまたは何かに対する肯定的な尊敬および尊重から構成される。異なる文化的所属を持つ、または自分の信念、意見、慣習が異なると思われる人々に敬意を抱くことは、効果的な異文化間対話と民主主義の文化にとって不可欠である。

⑥ 市民意識

市民意識とは、家族や友人などの身近な輪を超えて、自分の属するコミュニティや社会集団に対する態度のことである。それには、そのコミュニティへの帰属意識、コミュニティ内の他の人々を知ること、自分の行動がその人々に与える影響への意識、コミュニティの他のメンバーとの連帯と、コミュニティに対する市民の義務感が含まれている。

⑦ 責任

責任とは、自分自身の行動に対する姿勢である。それには、自分の行動を反映し、道徳的に適切な方法で行動する意思を形成し、それらの行動を誠実に実行し、自分自身にその行動の結果に対する責任を持たせることが含まれる。

⑧ 自己効力感

自己効力感とは、自己に対する態度である。それには、特定の目標を達成するために必要な行動を実行するための自身の能力についての前向きな信念ならびに問題を理解し、作業を達成するための適切な方法を選択肢し、障害をうまく乗り越え、世界を変えていくという自信が含まれる。

⑨ 曖昧さへの許容

曖昧さへの許容とは、不確実な状況に対する態度であり、複数の矛盾する解釈の対象となる。このような状況を前向きに評価し、建設的に対処することも含まれる。

技能

⑩ 自律学習の技能

自律学習の技能とは、他者の指示を受けずに、自分のニーズに応じて自分の学習を追求、整理、評価するために必要な技能である。

⑪ 分析的思考と批判的思考の技能

分析と批判的思考の技能とは、あらゆる種類の資料（例：テキスト、議論、相互引用、問題、出来事、経験など）を体系的かつ論理的に分析し、総合評価し、判断するために必要な技能である。

⑫ 聴くことと観察することの技能

聴くことと観察することの技能は、何が言われているのか、どのように言われているのかを認識し、他の人々の言葉以外の行動を認識し、理解するために必要な技能である。

⑬ 共感

共感とは、他の人々の考え、信念、感情を理解し、それに関連し、他の人々の視点から世界を見るために必要な技能のセットである。

⑭ 柔軟性と適応性

柔軟性と適応性とは、新しい環境や状況に効果的かつ適切に対応できるように、自分の思考、感情、行動を調整するために必要な技能である。

⑮ 言語、コミュニケーション、複言語の技能

言語、コミュニケーション、複言語の技能は、同じ言語または別の言語を話す人々と効果的かつ適切にコミュニケーションを行い、異なる言語の発言者の仲介役として行動するために必要な技能である。

⑯ 協調性の技能

協調性の技能とは、共有された活動、作業、ベンチャーにうまく参加し、グループの目標を達成することができるように他の人に協力を奨励するために必要な技能である。

⑰ 紛争解決のための技能

紛争解決のための技能とは、すべての当事者が受け入れ可能な最適な解決策に向けて、紛争当事者を指導することにより、平和的な方法で紛争に対処、管理、解決するために必要な技能である。

知識と批判的理解

⑱ 自己に関する知識と批判的理解

これには、自分自身の考え、信念、感情、動機、自分自身の文化的所属、世界観についての知識と批判的理解が含まれている。

⑲ 言語とコミュニケーションに関する知識と批判的理解

これには、ある人が話す言語で機能する社会的に適切な言語的および非言語コミュニケーションの慣習、異なるコミュニケーション・スタイルが他の人々に及ぼす影響、そしてすべての言語が文化的に共有された意味を独特の方法で表現する方法についての知識と批判的理解が含まれる。

⑳ 世界に関する知識と批判的理解

これには、政治、法律、人権、文化、文化、宗教、歴史、メディア、経済、環境、持続可能性を含む様々な分野における膨大かつ複雑な知識と批判的理解が含まれる。